

4 ミツバチ・マルハナバチ・天敵に対する農薬の影響

天敵による病害虫防除や、マルハナバチ、ミツバチによる授粉を行う際、農薬の使用によって天敵やハチの活動が著しく低下したり、死亡したりすることがある。天敵やハチの導入前に病害虫防除を徹底するとともに、耕種の防除法、物理的防除法を組合わせて、薬剤散布は極力避ける。農薬散布が必要な際は、天敵やハチの保護に十分注意する。

- ・いちご栽培では、殺菌剤、殺虫剤とも、仮植床だけに使用が限られている剤は、本ぼでは使用しない。
- ・薬剤を散布した場合は、下表の日数を経過した後に巣箱を導入する。この日数は、使用時期、ハウスの換気状態、天候、気温等によって大きく変わるので、一応の目安とする。
- ・影響のない剤であっても薬液が乾いていなかったり、薬液の臭いがする場合は活動に影響するので、ハウス内の換気に努め、薬液が乾いていることを確認してから巣箱をハウス内に持ち込む。

いちご栽培でミツバチ導入の目安となる日数は下表のとおり。(メーカー情報等による。有効成分自体は影響しないが、薬液の付着等がミツバチに影響を及ぼす可能性がある剤も、1~2日の項目に含まれる。)

目安となる日数	農薬名
1~2日	BT剤、アカリタッチ乳剤、アグロケア水和剤、アタブロン乳剤、アニキ乳剤、アフーム乳剤、アフエットフロアブル、アーデント水和剤、ウララ DF、エコピタ液剤、オレート液剤、カネマイトフロアブル、カリグリーン、カンタストライフフロアブル、ゲッター水和剤、コロマイト乳剤、サフオイル乳剤、サンクリスタル乳剤、サンヨール、シーマージェット、ジャストミート顆粒水和剤、除虫菊乳剤3、スターマイトフロアブル、ストロビーフロアブル、ダニオーテフロアブル、デランフロアブル、トップジンM水和剤、トリフミン水和剤・ジェット、ニッソラン水和剤、粘着くん液剤、バリアード顆粒水和剤、パロックフロアブル、パンチョ TF 顆粒水和剤・ジェット、ハーモメイト水溶剤、ピンロックフロアブル、ピラニカ EW、フルピカフロアブル・くん煙剤、プレオフロアブル、プレバソソフロアブル5、ファルコンフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ファンベル顆粒水和剤、フェニックス顆粒水和剤、ベネビア OD、ベリマーク SC、ベルコートフロアブル・水和剤、ボトキラー水和剤、マイトコーネフロアブル、マブリック水和剤 20、マッチ乳剤、モスピラン粒剤・顆粒水溶剤・ジェット、モベントフロアブル、ランマンフロアブル、ロムダンフロアブル
3~5日	サンマイトフロアブル、テルスタージェット、マブリックジェット
7~10日	コテツフロアブル、スピノエース顆粒水和剤
31日以上	アドマイヤー1粒剤、アクタラ粒剤5、スタークル・アルパリン粒剤、ダイアジノン SLゾル

※ミツバチとマルハナバチでは、同じ農薬でも感受性が大幅に異なることがあるので注意する。

また、マルハナバチ及び天敵に対する農薬の影響については、日本生物防除協議会が作成する「天敵等に対する農薬の影響の目安の一覧表」を参照する。